

**テーマ：景気動向指数（2015年10月）の予測**

発表日：2015年11月30日（月）

～一致C I、先行C Iとも明確な上昇も、先行きは予断を許さず～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
TEL:03-5221-4528

## ○一致、先行とも明確に上昇。ただし先行きは慎重に見る必要あり

内閣府から12月7日に公表される2015年10月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+1.9ポイント（9月：+0.1ポイント）と予想する。上昇幅は大きく、良好な結果である。内訳では、速報段階で公表される9系列のうち有効求人倍率を除く8系列がプラス寄与になると予想され、採用系列が幅広く上昇する形になる。特に、鉱工業生産指数や耐久消費財出荷指数、中小企業出荷指数など、生産・出荷関連のプラス寄与が大きい。

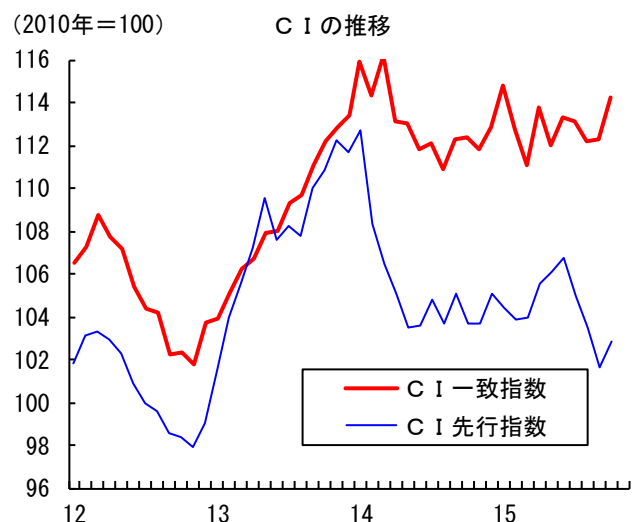
また、10月のC I先行指数は前月差+1.3ポイントを予想する。内訳では、新規求人数や最終需要財在庫率指数、生産財在庫率指数などの押し上げが大きい。在庫調整の進捗が反映された結果であり、内容も良好だ。

このように、C I一致指数、C I先行指数ともに明確な上昇が予想される。暗さが目立っていたここ数ヶ月だが、10月は久しぶりに明るい結果になりそうだ。ただ、楽観するのはまだ早い。本日公表された10月の鉱工業生産は前月比+1.4%と2ヶ月連続で上昇、在庫調整の進展も確認されるなどプラス面もあったが、一方で予測指数は弱く、強弱混在の内容だった。予測指数から判断する限り、11月、12月の鉱工業生産は2ヶ月連続でマイナスになる可能性が高い。C I一致指数に生産関連の採用系列が多いことを踏まえると、11、12月のC I一致指数は低下を見込むのが無難だろう。10月の数字が良いことは確かだが、まだ底打ちと言える状況ではない。また、C I先行指数についても、7月～9月に大幅に落ち込んだ後の反動の面があるだろう。先行き不透明感は依然強く、景気の足踏み感が解消されるには、もう少し時間がかかりそうだ。

## ○基調判断は「足踏み」維持の見込み

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月に続いて「足踏み」が維持される見込みである。10月の結果が予想通りであれば、3ヶ月移動平均の前月差はプラスに転じるが、「改善」への基調判断上方修正の基準は満たさない。

なお、「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」である。足元の景気に停滞感が残っていることがここでも確認される。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2015年10月は第一生命経済研究所による予測値